

会 議 記 録

| | | |
|------|--|----------------------------------|
| 会議名称 | 第4回杉並区肺がん検診外部検証等委員会 | |
| 日時 | 平成30年9月18日（火）午後7時00分～午後9時20分 | |
| 場所 | 杉並保健所 地下1階 講堂 | |
| 出席者 | 委員名 | 竹内会長、亀井委員、中西委員、中山委員 |
| | 事務局 | 杉並保健所長、健康推進課長、地域保健・医療連携担当課長、健診係長 |
| 会議次第 | 1 開会 会長あいさつ 2 議題 (1) 問題点と再発防止策に向けた提言について (2) その他 | |

会議要旨

1 開会

2 議題

(1) 問題点と再発防止策に向けた提言について

○ 区肺がん検診の指定医療機関制度について

- ・指定医療機関制度は、読影医相互の独立性の担保が難しいことや第三者の目が入らずブラックボックス化することから精度管理が難しい。指定医療機関制度を廃止し、判定会の強化を図り、医師会で二次判定・総合判定するようなやり方が望ましいとするのが1つの具体策である。
- ・判定会の強化に当たっては、読影能力を高めるための機器の導入等について区がバックアップ体制をとる必要がある。

○ 受診者数の見極めと実施医療機関の受入規模について

- ・受診対象者数や受診者数の動向を把握しておく必要がある。また、受診勧奨等により急激な変動が予想される場合は、その受診状況を予測しておく必要がある。
- ・実施医療機関に対し、キャパシティー調査をして、おおよその受け入れ可能の範囲を特定する必要がある。

○ 読影医の資格要件と確認について

十分な経験を有する読影医の資格要件は、区・医師会・学識経験者等による会議体で決定し、その確認もその会議体で行えばよいのではないか。

○ 区肺がん検診の精度管理と読影技能向上のに向けた仕組みづくりについて

- ・区肺がん検診にかかわる医師の研修会参加を義務化すべきではないか。他自治体でも実施

しているところがある。

- ・個々の読影の結果が妥当であったか否かの読影医師へのフィードバックが行われておらず、やりっ放しとなっていた。発見がん症例検討会を行うことで、読影技能が向上するので実施すべきではないか。

○ 国・学会への申し入れについて

区は、国や学会に対し、肺がん検診の読影医の専門性について明確にするよう申し入れをすべきではないか。

○ 判定方法の明確化について

一次判定は実施医療機関で行い、二次判定・総合判定は医師会判定会で行い、独立性を担保し、判定方法を明確にすべきである。

○ 胸部エックス線の撮影について

東京都の指針では、肺がん検診胸部エックス線撮影は、1方向が原則となっており、全国的に見ても正面からの1方向のみとなっている自治体がほとんどである。側面撮影を追加することで放射線被曝は1方向のみの2.5～3倍に増加するので、受診者にとっても不必要な被ばくは望ましいものではない。二次判定を医師会に引き上げた場合、読影件数が倍増するので、読影枚数を減らすメリットがあることから1方向とすべきではないか。

○ 区民への必要な情報提供について

- ・国立がん研究センターが提供しているがん検診のメリット・デメリットのひな型があるので、そうしたものを活用して啓発用資材を作成すればよいのではないか。
- ・現在は、区民が受診したいという意思を表明した後に区民周知用のチラシを送付している。本来は、受診をしようかどうか迷ったときに、どういうメリット、デメリットがあるのかを示せるような資材を区民に提供すべきである。

○ 杉並区がん検診精度管理連絡会について

5つのがん検診に対応するため、現行の杉並区がん検診精度管理連絡会を拡充し、開催頻度を見直す必要がある。

○ 実施医療機関におけるチェックリスト調査と評価指標のフィードバックについて

東京都の指針通り実施すべきである。

○ 区民健診やがん検診と河北健診クリニックの人間ドックとの併用について

- ・人間ドックの併用は、対策型検診なのか任意型検診なのか受診者に分かりにくく、検診全般と個々の検査に関する説明が欠如している。
- ・「特別価格で受診できる」との記載は、医療広告ガイドラインの禁止事項に該当する可能性

がある。

○ 区肺がん検診以外の胸部エックス線の必要性の有無

肺がん検診としての読影体裁等も整っていないことに加えて、検診結果の把握や分析が行われていなかったことから、今回の事案と同様な問題が起こっていた可能性さえ懸念される。不必要な検査は廃止してもよいのではないか。